



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

学校案内 2022

ゆめを見つける ゆめを分かち合う ゆめを育てる

自分の「好き」を見つけて
時間をかけてじっくりと向き合える。
学校には家族のような
仲間がいる、先生がいる。
失敗を責めることなく互いを認め合い、
小さな成功の喜びを分かち合える。
そんな幸せな子ども時代を
過ごしてもらいたい。
遊びの中から多くを学び、
学びの中にも遊び心を忘れず
自分らしい未来を切り拓く力。
学び舎ゆめの森は、公教育の可能性を信じて
子どもたち一人ひとりが輝ける
夢の学校づくりにチャレンジします。



学び舎ゆめの森は、認定こども園と義務教育学校、
預かり保育、学童保育を一体にした施設です。大熊
町では、保護者の皆さんが安心して子育てできる
環境をつくっていきます。

学び舎 ゆめの森は、地域の中心として 0歳から15歳の子どもたちが共に学ぶ場所

2023年度、「学び舎 ゆめの森」が誕生します。0から15歳の子どもたちがともに遊び、学び、さらに地域の方々とも協働していく学び舎です。多様性に満ちた社会において、子どもたちが自分で考え、人と協力して生きていく力を育むことを目指しています。東日本大震災と原子力災害で被災した当町に、教育施設が戻るのは12年ぶりです。子どもたちの健やかな成長を第一に、ゼロからのまちづくりが進む大熊だからできる教育を実現していきます。

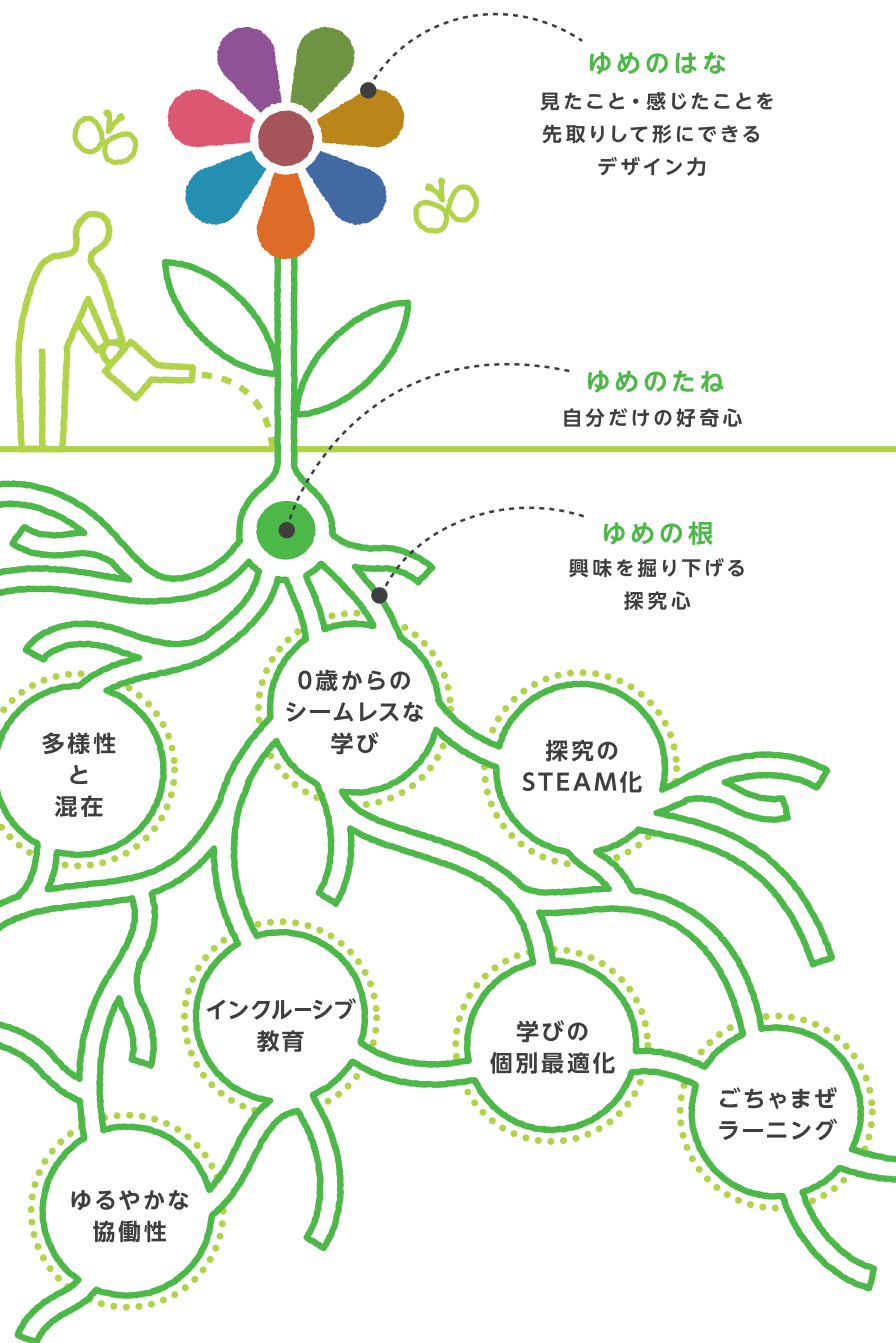


大熊町教育長 木村政文

「温故創新」

誇りを持って、自分の未来を切り拓く

これからの未来を生きる子どもたちには、見たこと・感じたことを先取りして形にできるデザイン力を育み、自分だけのゆめのはなを育ててもらいたい。
学び舎ゆめの森では、一人ひとりに芽生えたゆめのたね(好奇心)を大切に見守り、じっくりと根を張って探究できる時間を大事にしていきたいと考えています。

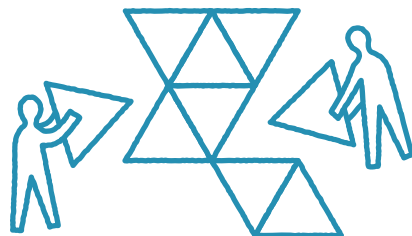


自分で学びをデザインできる

多様性と混在が共にある、新しい教育空間

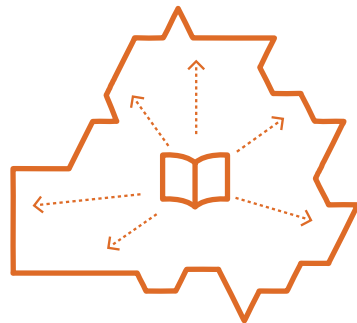
1 三角形の組み合わせで生まれる自由につながる空間

三角形の鉄骨のフレームを組み合わせること
で地震に強く、なおかつ変化に富んだどこにもない自由な形状の建物を作ります。一体感のある奥行きのある深い庇の下のテラスなど、室内、半屋外、屋外とつながるのびのびとした環境が生まれます。



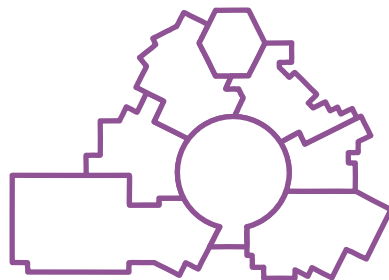
2 図書ひろばを中心とした多様性と混在が共にある場所

建物の中心には吹抜けの大きな開放的な図書ひろばを設け、こども園、小学校、中学校、職員室、体育館、パレット(特別教室)を放射状に配置しながら曖昧に繋いでいくことで、子どもたちの活動が混じり合う多様な学びの場が広がります。



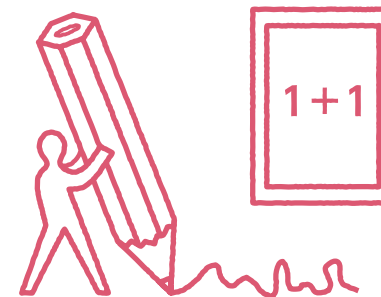
3 自分で学びをデザインできるどこでも教室になる自由な学び場

ゆめの森の教室には一つとして同じ大きさの部屋はありません。みんなバラバラ、形も四角形でなく様々で、隣の部屋とくっつけて使ったり、静かで落ちついた場所を見つけたり、一人ひとりが好奇心を持って探究できる場所をつくります。



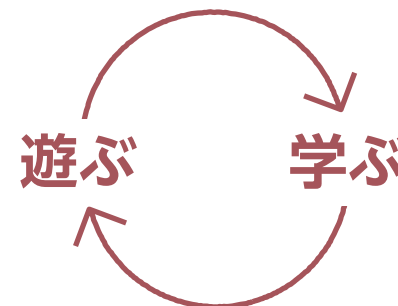
4 デジタルとアナログ

デジタル教材を使って、それぞれの学習進度に合わせていつでもどこでも学びをスタートする事ができます。また一方で対面でのやりとりや、ものに触れて感じる事も大切です。本に囲まれた空間でデジタルとアナログを行き来しながら創造力の基礎をつくっていきます。



5 遊びながら学ぶ学びながら遊ぶ

ゆめの森の校舎には子どもたちが遊びながら学び、学びながら遊ぶ様々な仕掛けがあります。自分の机に座ってじっと考えるだけでなく、日常的に身体を思い切り使って五感で感じて考えられる環境をつくります。



6 地域と共にシェアする0歳から100歳までの学び舎

体育館、創作工房、図書ひろばなど、地域の方々にも利用可能な計画として、子どもたちを中心に、地域の方たちにも開かれた町の交流拠点として、0歳から100歳までの学び舎となることを目指します。



学びの環境について

学び舎 ゆめの森 11のエリア

学び舎ゆめの森の校舎は、特徴的な形の11のエリアによって構成されています。エリアの間を壁で分けることなく、わくわく本の広場を中心にしながら子どもたちが自由に学びをデザインできる環境づくりを目指しています。

のびのび学び室

異学年が混じり合って学ぶ小学校エリアです。

にこにこサポータールーム

昇降口のすぐ横に設けたガラス張りの教職員スペースです。

さんさんアリーナ

体育館アリーナとサブアリーナの大小2つの運動場があるエリアです。

わくわく本の広場

校舎の中央にある大きな吹抜けの図書ひろばです。

ぼかぼか広場

認定こども園と小学校エリアの間にある中庭です。

すくすく遊び室

年齢ごとに緩やかに分けた保育室を中心とした認定こども園のエリアです。

きらきらお話の庭

絵本コーナーを中心とした低年齢の子どもたちのための図書コーナーです。

どきどきアトリエ

創作工房、家庭科室、音楽室、ランチルームを集めた創造と交流のエリアです。

1F フロア

エリアイメージ



1F わくわく本の広場



1F きらきらお話の庭



1F のびのび学び室



1F すくすく遊び室

ぐんぐん学び室

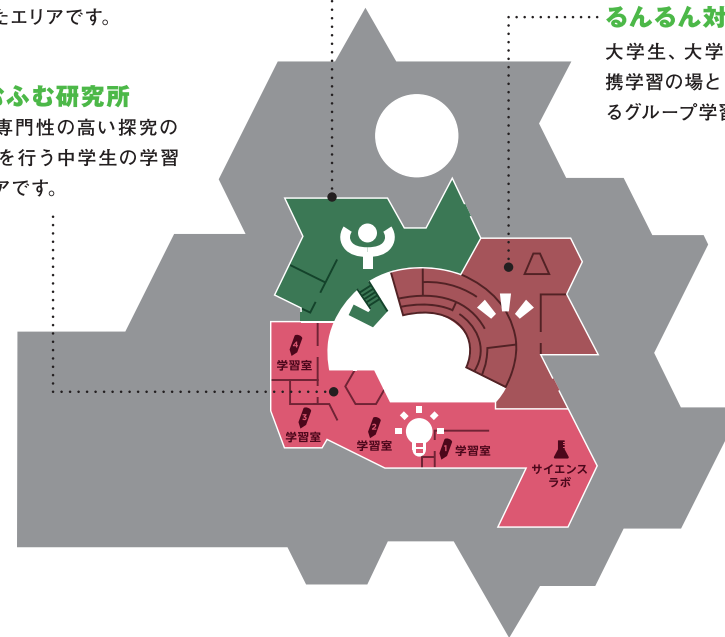
中学生の生活の拠点となる、生徒フォーラムを中心としたエリアです。

ふむふむ研究所

より専門性の高い探究の学びを行う中学生の学習エリアです。

るんるん対話の森

大学生、大学の先生との連携学習の場としても考えているグループ学習エリアです。

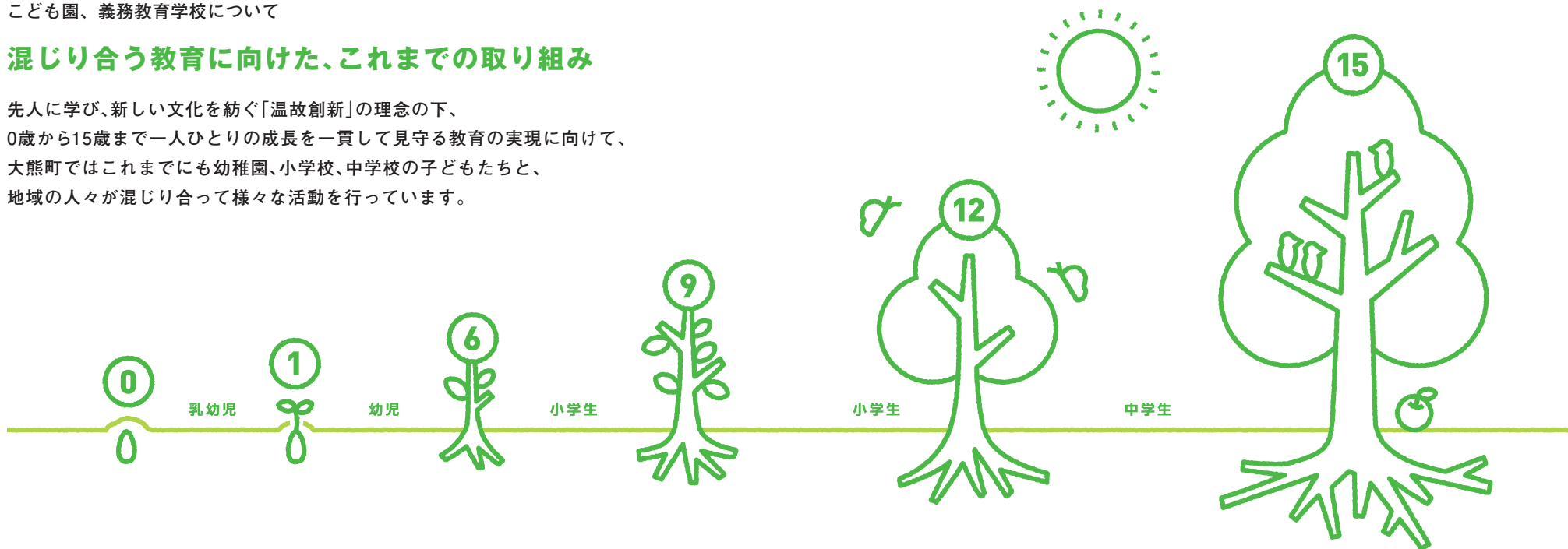


2F フロア

こども園、義務教育学校について

混じり合う教育に向けた、これまでの取り組み

先人に学び、新しい文化を紡ぐ「温故創新」の理念の下、
0歳から15歳まで一人ひとりの成長を一貫して見守る教育の実現に向けて、
大熊町ではこれまでも幼稚園、小学校、中学校の子どもたちと、
地域の人々が混じり合って様々な活動を行っています。



現在、幼小中で行っている教育の取り組み事例



1 幼稚園児から大人まで
みんな一緒に運動会



2 大学生と協力して
みんなの秘密基地づくり



3 大熊町の特産品を使った
スイーツづくり



4 IT教材(キュビナ)を使った
教科学習の内容の習熟



5 幼小中で本の世界に
どっぷり浸るお話し会



6 地域の方と協力して行った
花の苗植え



7 大熊町の伝統的な踊りを学ぶ
ワークショップ



8 新校舎のエリア名を考える
話し合い活動

学び舎 ゆめの森 の うた

作詞：谷川俊太郎 作曲：谷川賢作

ひとりっぺいいな ルンルンルン
 みんなもいいな グングングン
 ひとりもいいけど でも やっぱみんなといっしょがいいな

ぼくとあなたと
 わたしときみと
 すきなものは ちがうけど
 きらいなものは ちがうけど
 ひとりとひとりとひとりでみんな
 ひとりとひとりとひとりでみんな

ゆめのもりで
 いっしょにまなぶ
 ゆめのもりで
 いっしょにあそぶ

それぞれのあすをさがして
 きょうのおおきなそらのした

ドレミファソラシド
 ドシラソファミレド

ゆめのもりで
 まなんであそぶ



学び舎 ゆめの森

Manabiya Yumenomori

年齢の違う子どもたちが、地域の人々と触れ合いながら、「学び合い」ができる、ゆめの森のシンボルです。人のシルエットがコミュニケーションにより、活発な交流が生まれる姿と、大熊町の「大」をモチーフに、重なることで森をイメージしています。



作詞 谷川俊太郎さん

1931年東京生まれ。1952年第一詩集「二十億光年の孤独」を刊行。1962年「月火水木金土日の歌」で第四回日本レコード大賞作詩賞、1975年「マザー・グースのうた」で日本翻訳文化賞、1982年「日々の地図」で第三十四回読売文学賞、1993年「世間知らズ」で第一回萩原朔太郎賞など受賞・著書多数。詩作のほか、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表している。



作曲 谷川賢作さん

1960年東京生まれ。演奏家として、現代詩をうたうバンド「DIVA」「孤独の発明」ハーモニカ奏者続木力とのユニット「パリヤーン」、詩人の父、谷川俊太郎と朗読と音楽のコンサートを全国各地で開催。映画「四十七人の刺客」NHK「その時歴史が動いた」テーマ曲等。音楽を担当した最新映画「祈り〜幻に長崎を想う刻」(監督・松村克弥)



グラフィック 廣村正彰さん
デザイナー

1954年愛知県生まれ。美術館や商業、教育施設などのグラフィックデザイン、サインデザインを数多く手がけている。主な仕事に、横須賀美術館、すみだ水族館、9hナインアワーズ、アーティゾン美術館、東京2020スポーツピクトグラム開発など。主な受賞歴に、毎日デザイン賞、KU/KAN賞、SDA大賞、グッドデザイン賞金賞など。主な著作に「デザインからデザインまで」(ADP)ほか。

新校舎周辺の整備状況について

大熊町は、2019年4月の大川原地区の避難指示解除後、大川原地区復興拠点に新庁舎・公営住宅・福祉施設・商業／交流／宿泊温浴施設の建設を進めてきました。2023年には、認定こども園（預かり保育）・義務教育学校・学童保育が一体となった教育施設「学び舎 ゆめの森」が開校し、子どもたちと地域のための活動拠点が整備されます。



交流施設 linkる大熊

交流拠点の中心に位置しています。施設内には、運動スタジオ・音楽スタジオ・多目的ホール・キッズコーナー・図書コーナー等があります。



宿泊温浴施設 ほっと大熊

和室1部屋と洋室12部屋、キッチンスペース等の宿泊施設を備え、日帰り入浴を楽しむこともできます。



商業施設 おおくまーと

コンビニエンスストア・雑貨店・飲食店・美容室・電器店・コインランドリーが Outcome しています。



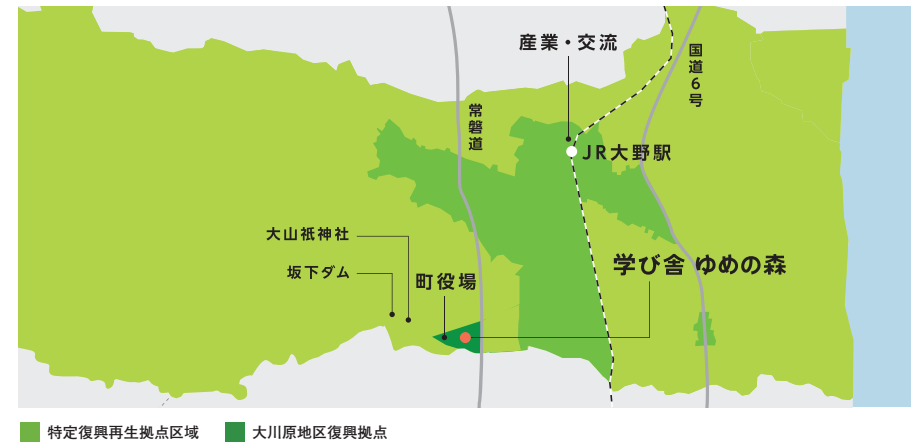
大熊町について

福島県の太平洋に面する「浜通り」地域の真ん中に位置し、温暖な気候に恵まれた自然豊かな町です。2011年3月の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、全町避難しましたが、2019年5月には大熊町に役場機能が戻り、現在も復興拠点を中心に着実にまちづくりが進められています。



大熊町の今後の整備計画について

2023年春には大川原地区以外にもJR常磐線大野駅周辺を含めたエリアが特定復興再生拠点区域として避難指示解除を予定しています。大野駅周辺には今後、駅前産業交流施設・住宅地等の整備を予定しています。



大熊の癒しスポット紹介 -大山祇神社と坂下ダム-

大川原地区の町役場から西側の山に向かって20分ほど散策すると、大熊町の歴史や自然を感じるスポットがいくつかあります。その中でも大山祇神社と坂下ダムは季節が変わるたびに訪れたくなるような場所です。春と秋に坂下ダムまでウォーキングイベントも行われています。ぜひ遊びに来てみてくださいね！



大山祇神社の大杉



2021 冬の坂下ダム



お問い合わせ:大熊町教育委員会

TEL:0240-23-7532

<https://manabiya-yumenomori.ed.jp>

発行:2022年3月 発行元:大熊町教育委員会(福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平1717)

企画・編集:大熊町教育委員会、飯田善彦建築工房、ノガン 冊子デザイン:廣村デザイン事務所

※本誌は、2023年に開校する大熊町立 学び舎 ゆめの森の建設プロセスや教育の現場の様子を伝える活動の一環として発行しました。
2022年3月時点の情報をもとに制作しています。